



主の公現 (マタイ 2:1-12)

学者たちとともに幼子の前に跪こう

主の公現の祝日を迎えました。占星術の学者たちは幼子イエスを礼拝し、「ヘロデのもとへ帰るな」と夢でお告げを受け、別の道を通って自分たちの国へ帰りました。占星術の学者たちのように、私たちも「ヘロデのもとへ帰るな」この意味についても考えることにしましょう。

今年元旦が仕事始めになりました。正月一日の夜6時、平戸ザビエル教会の神父様から、「今すぐ北松中央病院に行つて欲しいんだけど、行けるか？」と電話がかかりました。先輩は神の母聖マリアのミサをささげてすぐ休暇を取り、実家の飽ノ浦に帰っていたそうです。所属する信者さんが危篤で連絡が入ったがあいにくすぐに行けない。お前行けるか？ということでした。

私はすぐ「はい。大丈夫です」と返事しました。でも下心もありました。「これで恩を売ったなあ」ということです。まあそれはたいしたことではありませんが、初日から司祭の務めを果たせる、初日からかけがえのない奉仕に関わることができる。何と素晴らしい生き方だろう。小中高校生、青年の皆さんいかがですかとその時思いました。

年が明けてから寒くて、トレーニングは外を走らずルームランナーで適当に済ませています。三日まではたしかに寒かったですが、週末になると日焼けしそうなぽかぽか陽気で外に出てトレーニングできたはず。でも怠けて、ここ数日ルームランナーばかりです。時速5キロ、6キロ、7キロと三段階速度が上がって、それを3セット繰り返すパターンを利用しています。まあ、全くやらないよりはましか、と自分を慰めています。

福音朗読に移りましょう。今年2019年の説教は、「瀬戸山の風」に書いた通り、「あと一歩前に出る神の民となれますように」この年間テーマを踏まえて話そうと思っています。また、説教を聞く皆さんも、そのつもりで必要なことを聞いて持ち帰ってください。

いよいよ占星術の学者たちが、幼子イエスを礼拝しに来ました。彼らは一般常識に倣って、ヘロデ王の支配する国に入るのだから、まずはヘロデ王に挨拶してから「ユダヤ人の王としてお生まれになった方」を拝みに行こうとします。21世紀であってでも、国によってはどんな活動をするのか届け出ておかないと、スパイ活動をしていると決めつけられてひどい目に遭わされることもあるので、ひとまずヘロデ王に挨拶に行くことは賢明な判断でした。

ところがヘロデは占星術の学者たちが入国した理由を聞いて、良くない考えを巡らせました。対立する王が現れた。力を蓄える前に葬ってしまおう。これももしかしたら、一般常識かも知れません。挨拶を終え、再び星の導きで新しく生まれた王を訪ねる学者たちを見送りながら、すでにヘロデは部下に尾行させた可能性もあります。

たとえ背後に危険が迫っていても、占星術の学者たちは星の導きを

信じて幼子のもとに急ぎました。彼らが見たものは、家と呼べるか分からないような場所に母マリアと共におられた幼子でした。「彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。」(2・11)

占星術の学者たちは全く疑うことなく幼子に礼拝を献げ、贈り物を献げたのでしょうか。ヘロデ王が邪心を持ってもお「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」と挨拶で述べたのですから、全く疑いを持っていなかったのでしょうか。

彼ら占星術の学者たちが礼拝し、贈り物を献げた幼子イエスは、学者たちがひれ伏すような圧倒的なものを持っていたのでしょうか。幼子イエスを見る前から、彼らにとって幼子は「ユダヤ人の王としてお生まれになった方」だったのですが、そのお方が家畜小屋で飼い葉桶に寝かされていること、これはすでに学者たちを圧倒する出来事だったかも知れません。

彼らが想像していたのは、一般常識で考えられる王子の誕生の場面だったでしょう。彼らは想像を完全に覆されました。予想を覆された時、人間ができることは、目を背けることか、自分の予想をあっさり横に置くことか、いずれかです。これから自分たちの国に帰って、目で見たとを告げ知らせる彼らは、予想を完全に覆す圧倒的なお方を心に納めて帰ったのです。

私たちはどうでしょうか。占星術の学者たちと同じように、家畜小屋で飼い葉桶に寝かされている幼子の前に、膝をかがめることができるのでしょうか。無力に見えて、全能であるお方を、思い込みを捨てて礼拝することができるのでしょうか。

幼子イエスに跪くことができる人は、聖金曜日に十字架上のイエスに跪くこともできます。「こんな方が人類を救えるはずがない」と言うなら、十字架上で命を終え、命を父なる神にお返しになるイエスにも「こんな方が人類を救えるはずがない」と言うのでしょうか。

今日、主の公現に学者たちとともに跪く人は、イエスを信じる信仰を土台に生きる人です。半信半疑の人は、あなたが作り上げた信仰を信じる人です。私たちも占星術の学者とともに、自分が正しいと思っている殻を破り、一歩前に出て、幼子イエスに跪きましょう。「ここが座り心地が良い」と考えている場所を越えて飼い葉桶に眠る幼子の前に行かなければ、イエス・キリストを信じる本物のキリスト者にはなれないのです。

主の洗礼(ルカ 3:15-16,21-22)